

### 第 33 回反核医師のつどい in 北海道 アピール

ロシアとウクライナの戦火は未だ終わりが見えず、核抑止論にあるはずのないリアリティが与えられ、核戦争のリスクがかつてなく高まっています。日本を含む各国が軍縮や核廃絶とは真逆の道を歩んでしまっており、このまま何も変えられなければ、世界は否応なしに破滅に向かってしまう。そうした中で今年5月に開催された G7 広島サミットには、平和を願う世界中の希望と、二度と核戦争は起こしてはならないとの被爆者たちの切実なまなざしが向けられていました。しかしながら、この会議で発せられたメッセージは世界中を失望させ、被爆者の願いを踏みにじるものでした。核廃絶に向けて、さらなる努力を続けなければならないことを思い知らされました。

平和で公平な世界を実現するためには、核兵器と気候変動という、二つの巨大な危機に立ち向かわなければなりません。

福島第一原発の ALPS「処理」された汚染水の排出をめぐる混乱は、「脱原発を実現し、どのように地球環境を守っていくか」という最も重要な論点から人々の目を遠ざけ、無益な分断を生んでいます。北海道も今、核のゴミ（高レベル放射性廃棄物）問題で揺れています。処理に 10 万年かかるとされる核のゴミを押し付けて良い土地など、この地球上のどこにもありません。私たちの決断がはるかな未来にも繋がっていることを忘れてはなりません。同時に、「人間と環境がよい関係を保っていれば、人間は幸せに暮らせる」というアイヌの世界観を、あらためて思い起こさなければならない時です。

健康と平和のために尽力するという医療者としての責任と使命をもう一度思い出して、何かがおかしい、どこか悲しい方向に向かってしまっているこの世界の流れを断ち切らなければなりません。そのために私たちは、世代の違いや、価値観の違い、思想の違いで分断するのではなく、一人一人が互いを認め合い、不足を補い合って行動していくべきです。

核のない平和な世界の実現に向けて、世界の現状を多角的に学び、被爆者の声を受け継ぎ、世代を超えて医療者たちが連帯して活動し続けること。私たちは「後継者育成プロジェクト」立ち上げの場となったこのつどいで、反核運動を続けるために大切なことをあらためて認識し、お互いを支え合うことができると確信しました。今日この北海道の地で得たつながりを明日への原動力にして、平和に向けたさらなる一步を踏み出していくことを決意します。

2023 年 9 月 24 日

核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 北海道  
参加者一同